

---

# 桜並木通りで会いましょう

比嘉 イズル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

桜並木通りで会いましょう

### 【Nコード】

N8022B

### 【作者名】

比嘉 イズル

### 【あらすじ】

『5年後、お互いに忘れてなかったらまた逢おう…』そう約束して別れた彼と彼女。今日がその5年目…。彼と彼女の短いLoveストーリー。アナタは何を目撃するのでしょうか？

(前書き)

比嘉 イズルの第一作目ですッ！  
稚筆で申し訳ありません

m ( ) m

『5年後、お互いに忘れてなかったらまた逢おう…』  
そう約束して別れた彼と彼女。

今日がその5年目…。

彼女は約束の場所へと歩いていった。

「優介ゆうすけきてるかなあ？」

呟く彼女の鼓動はバクバクと

周りに聴こえるんじゃないかと

疑われるほどに強く脈打っていた。

同じ頃…彼は一人満開の桜の下に立っていた。

「芽衣めい…来ないな…。」

何であんなコトを言ったんだらう。

1人呟いて思い出していた。

彼女が出て行き、ガランとした部屋…

こんなにも広がったのか？

と思った。

1日そしてまた1日と彼女のいない日々が続き…

部屋は散らかり、帰ると必ずと言って良いほど

ついていた灯りは消えて冷え冷えとしていた。

彼女の存在がどんなに大きく温かかったのか…思い知らされた。

5年という月日は長かった。

何故5年後に会おうと言ったのか？

理由は忘れてしまった。どうでも良いコトだったような気がする。

ちよつとケンカしてお互い距離を置こうかと言つ話になり

いつの間にか

5年後に…

という話になった。

「…優介？」

その声でふと我に返る彼。

「芽衣？」

顔を上げると目の前には満面の笑みの彼女。

「久しぶりだねえ。」

「ああ。ホントに久しぶりだな。もう来ないかと思ってたよ。」

「わたし来たよ？約束だったでしょ。」

忘れられなかったらまた逢おうって…。」

涙目の彼女。

「忘れてないよ？…1分1秒だって…忘れられなかった…。」

2筋の涙を流す彼女と

宥める様に微笑み語りかける彼。

「俺もだよ。…芽衣？」

愛おしそうに彼女の名を呼ぶ。

「…なに？」

「愛してるよ。誰よりも何よりも芽衣だけを…好きだ。」

「優介…。」

枯れかけた涙の泉が

また潤い始める。

2人は、どちらから共なく手を繋ぎ、夕陽の桜並木通りを歩いて行った。

そして2人は語り合う。

どんなに後悔したか。

どんな5年間だったのか。

どんなに愛しているか。

その手を離さずに…繋いだままで…。

(後書き)

今回は御観覧ありがとうございました。

いかがでしたか？

お気に召して頂けたでしょうか？

もしもあなたの御眼鏡に敵えたのなら光栄です。

読者の皆様に幸福の嵐が訪れますように…

( <人 > )

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8022b/>

---

桜並木通りで会いましょう

2011年1月26日16時20分発行